

2025（令和7）年度
高齢者実態調査報告書
《本人調査》

大阪市

目次

1	調査概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査設計	1
(3)	調査項目	1
(4)	回収状況	2
(5)	報告書の見方	3
2	調査結果	5
(1)	調査回答者の基本属性	5
問1	記入者	5
問2 (1)	本人の性別	6
問2 (2)	本人の年齢	8
問2 (3)	居住区	10
問2 (4)	居住年数	13
(2)	世帯・住まいの状況	15
問3	世帯状況	15
問3-1	昼間の状況	18
(3)	健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	20
問4	要介護・要支援認定状況	20
問5	介護が必要になった場合の暮らし方	24
問6	日常生活への不安の有無	31
問6-1	日常生活への不安	34
問6-2	不安を感じた時の相談先	39
問7	情報通信機器の所有状況と利用状況	43
問8	情報通信機器の利用目的	52
問9	医療の相談先	56
問10	希望すれば在宅医療を受けられることの認知度	62
問11	在宅医療の利用状況	65
問12	人生会議（ACP）の認知度	69
問13	人生の最終段階に過ごしたい場所	71
問14	人生の最終段階についての話し合いの有無	76
問14-1	人生の最終段階についての話し合った相手	78
問14-2	話し合いで決めた内容の共有有無	81
(4)	地域生活支援	82
問15	認知症の認知度	82
問16	認知症基本法の認知度	84
問17	認知症の人の支援	86

問 18	孤立死に対する意識	92
問 18-1	孤立死を身近に感じる理由	95
問 19	災害時・緊急時にひとりでの避難の可否	99
問 19-1	災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無	102
問 20	災害時の心配事	105
問 21	地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の利用状況	112
問 21-1	地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）を知った経緯.....	117
問 21-2	地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の利用目的と満足度	124
問 22	高齢者虐待の相談先の認知度.....	126
問 23	消費者被害の経験有無	128
(5)	将来の介護や援護に対する考え.....	130
問 24	特養入所意向	130
問 25	特養の整備と介護保険料	133
問 26	介護保険サービスと介護保険料に対する考え	137
問 27	介護保険料の上昇を抑制するために必要な取組	140
(6)	高齢者施策全般	145
問 28	高齢者向け施設・事業の利用状況・意向	145
問 29	自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向	147
(7)	高齢者施策に関する意見・要望等	150
3	個別テーマに関する分析【ひとり暮らし高齢者の状況】	152
(1)	回答者の基本属性	152
問 2 (1)	本人の性別	152
問 2 (2)	本人の年齢	152
(2)	健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	153
問 4	要介護・要支援認定状況.....	153
問 5	介護が必要になった場合の暮らし方	154
問 6	日常生活への不安の有無.....	154
問 6-1	日常生活への不安内容	155
問 6-2	不安を感じた時の相談先	156
問 7	情報通信機器の所有状況と利用状況	157
問 8	情報通信機器の利用目的.....	158
問 9	医療の相談先	159
問 10	希望すれば在宅医療を受けられることの認知度	160
問 11	在宅医療の利用状況	160
問 13	人生の最終段階に過ごしたい場所.....	161
問 14	人生の最終段階についての話し合いの有無	162
問 14-1	人生の最終段階について話し合った相手.....	162
(3)	地域生活支援	163
問 17	認知症の人の支援	163

問 18	孤立死に対する意識	164
問 18-1	孤立死を身近に感じる理由	164
問 19	災害時・緊急時にひとりでの避難の可否	165
問 19-1	災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無	165
問 20	災害時の心配事	166
問 21	地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の利用状況	167
問 21-1	地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）を知った経緯.....	168
問 23	消費者被害の経験有無	169
(4)	将来の介護や援護に対する考え.....	169
問 24	特養入所意向	169
問 25	特養の整備と介護保険料	170
問 26	介護保険サービスと介護保険料に対する考え	170
問 27	介護保険料の上昇を抑制するために必要な取組	171
(5)	高齢者施策全般	172
問 28	高齢者向け施設・事業の利用状況・意向	172
資料編	173

1 調査概要

(1) 調査目的

大阪市内に居住する65歳以上の高齢者を対象に、世帯の状況、日常生活の状況、将来の介護に対する考え、地域生活の状況、高齢者向けサービスの利用状況と利用意向などを把握し、大阪市内における今後の高齢者施策及び介護保険事業制度の運営に資する基礎資料を得ることを目的に実施した。

(2) 調査設計

- ① 調査地域：大阪市内全域
- ② 調査対象：大阪市内に居住する満65歳以上の高齢者から無作為に抽出した19,200人
- ③ 調査方法：郵送配布、郵送回収及びWEB（インターネット）による回答
- ④ 調査期間：令和7年7月11日（金）から令和7年8月8日（金）

(3) 調査項目

① 調査回答者の基本属性

記入者、性別、年齢、居住区、居住年数

② 世帯・住まいの状況

世帯状況、昼間の状況

③ 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

要介護・要支援認定状況、介護が必要になった場合の暮らし方、日常生活への不安、情報通信機器の所有状況と利用状況、医療の相談先、希望すれば在宅医療を受けられることの認知度、在宅医療の利用状況、人生会議（ACP）の認知度、人生の最終段階に過ごしたい場所、人生の最終段階についての話し合い

④ 地域生活支援

認知症の認知度、認知症基本法の認知度、認知症の人の支援、孤立死に対する意識、災害時・緊急時の支援、地域包括支援センター・ランチの利用状況・満足度、高齢者虐待の相談先の認知度、消費者被害の経験有無

⑤ 将来の介護や援護に対する考え

特養入所意向、特養整備と介護保険料、介護保険サービスと介護保険料

⑥ 高齢者施策全般

高齢者向け施設・事業の利用状況・意向、自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向

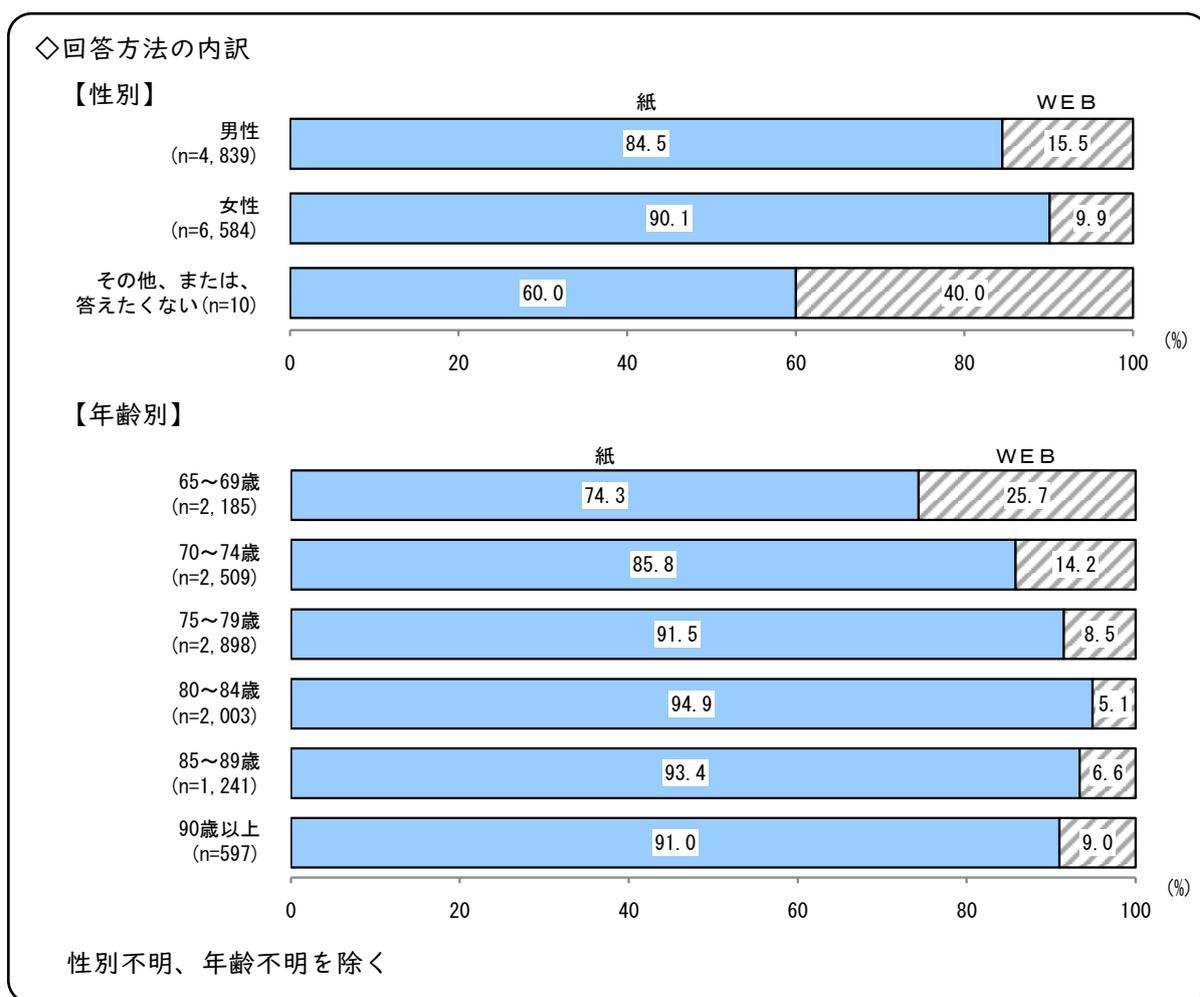
⑦ 高齢者施策に関する意見・要望等

(4) 回収状況

調査対象者 (a)	回収数 (b)	集計対象外数 (c)	有効回答数 (d)=(b)-(c)	有効回答率 (e)=(d)/(a)
19,200	11,657	170	11,487	59.8%

※有効回答数／紙調査票・WEB回答の内訳

紙調査票	WEB	計
10,084 87.8%	1,403 12.2%	11,487 100.0%



※集計対象外数の内訳（調査票の返送があったが、下記の理由により集計対象から外したのもの）

本人の状況を把握している者がいない	転居	死亡	その他	白票 回答不備	計
10	16	29	99	16	170

※その他とは、入院（入所）中、認知症等により回答が困難という理由により返送されたもの。

【年齢】有効回答数を全体とした各回答者の人数（上段）と割合（下段）

65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	無回答	計
2,185 19.0%	2,509 21.8%	2,898 25.2%	2,003 17.4%	1,241 10.8%	597 5.2%	54 0.5%	11,487 100.0%

【要支援・要介護認定状況】有効回答数を全体とした各回答者の人数（上段）と割合（下段）

要支援・要介護認定者							非該当 (自立)	事業 対象者	未申請・申請中	無回答 わからない・ 無回答	計
要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5					
679 5.9%	389 3.4%	325 2.8%	341 3.0%	249 2.2%	198 1.7%	135 1.2%	1,368 11.9%	24 0.2%	6,878 59.9%	901 7.8%	11,487 100.0%

（5）報告書の見方

- ① 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- ② 図表上の「MA%」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA%」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。
- ③ コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
- ④ 報告書記載の「前回調査」とは、令和4年度実施の高齢者実態調査の結果を示している。
- ⑤ クロス集計結果の『性別』における「その他、または、答えたくない」、『所得段階別』の「不明」、『介護度別』の「事業対象者」は、回答者数が少ないため、分析に関するコメントは省略している。
- ⑥ 前期・後期高齢者別による分析について

年齢や性別に加え、要介護・要支援認定が増加していく後期高齢者以降と前期高齢者別の意識や傾向、各種サービス等の利用状況に関するデータの一部を、「※前期・後期別」としてグラフ化している。

【例】今回の調査の【問6】「あなたは、日常生活全般で不安を感じていますか。」という問いでは、「とても不安を感じる」と「多少不安を感じる」を合わせた割合は、前期高齢者が52.7%であるのに対し、後期高齢者は6割近く（58.1%）が不安を感じている。

